

あさひ  
朝日遺跡

所在地 清須市ほか  
(北緯35度13分18秒 東経136度51分18秒)  
調査理由 名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速  
名古屋朝日線  
調査期間 平成19年4月～平成19年7月  
調査面積 348㎡  
担当者 赤塚次郎・永井宏幸



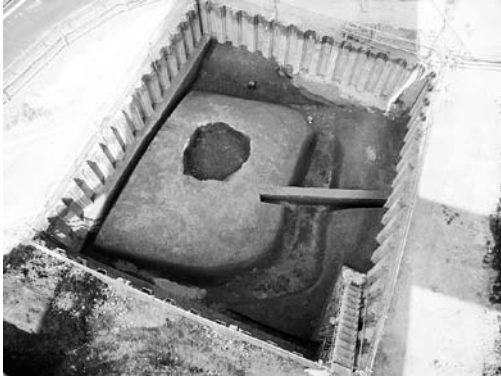
調査地点 (1/2.5万「清洲東」)

**調査の経過** 本遺跡は、愛知県清須市域を中心に広がる愛知県下を代表する弥生時代の大集落である。遺跡は中央部に存在する谷状地形をはさんで、北と南側に居住区が営まれ、さらにその周囲には広く墓域・生産域が展開する。調査は、名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局愛知県道事務所・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。本年度は、348㎡を対象として、07Ba区・07Bb区・07Bc区・07D区の4調査区を設定し、調査を行った。

**調査の概要** 今回の調査区07Bbは、北集落環濠帯に近接する弥生中期を中心とした方形周溝墓群(北墓域)が展開する地区である。基本層序は、朝日U層(古墳中期)・M層(古墳前期)・H層(弥生後期・古墳早期)の水平堆積層が存在し、全体に粘り気の強い土質が確認できる。その中で特に朝日H層が、周溝墓に伴う各周溝内に厚く堆積する状況が確認できた。検出できた主要遺構は、中期後半を中心とした5基の方形周溝墓と、加えてその下層において竪穴建物・廃棄土坑等が展開する。方形周溝墓の下層に見られた土坑・建物等は、周辺域に中期前半期を中心とした居住域が散在していた点を示唆するものであろう。ところで北墓域としては、貝田町式後半期を中心として設定されていくようであり、調査区周辺では、一辺5・6mの比較的小型の周溝墓群が展開する地区と位置づけることができる。調査区内では墳丘の主軸を異にする2つの周溝墓群が確認でき、一つは調査区北側に存在する旧調査区SZ149(002SZ)とその北側に展開する03Bc区SZ02である。次に調査区中央部から南には、001SZ・003SZ・005SZが配置されており、周溝墓の軸線と主体部の主軸とに相関関係が認められる。

また調査区南に存在する003SZと005SZの間には、陸橋部を共有する状況が認められた。特に003SZの南東陸橋部では、基盤黄色シルトによる混合斑土が丁寧に貼付けられており、墳丘盛土の変化に伴い傾斜路を整備していく様子がうかがえる。さらにその斜面両端には加工された材や、山中式I式期の高杯の配置が認められた。こうした状況は、07D区004SZでも確認されており、家族墓としての意識とその墓前祭の具体的な事例を示すものとして大変興味深い。

(赤塚次郎)



07D区 004SZ全景



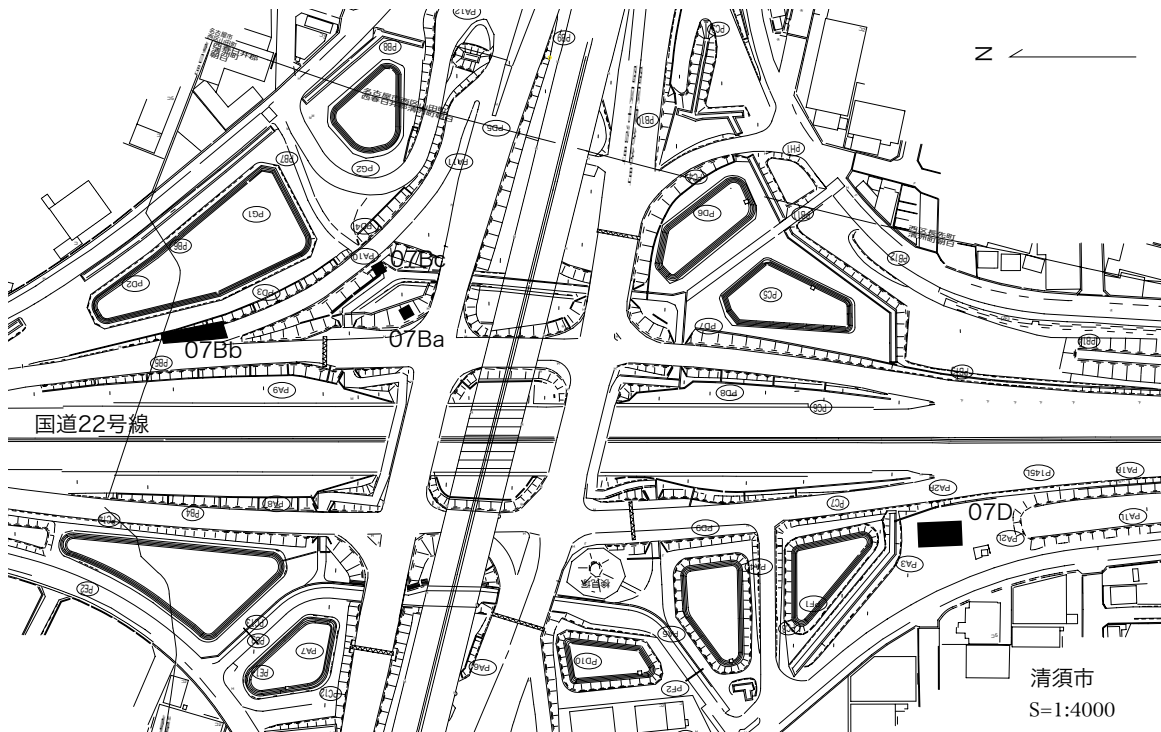
07Bb区 全景



07Ba区 調査風景



07Bb区 003SZ主体部調査風景



東名阪自動車道路

朝日遺跡調査区 2007